

令和六年度 優秀作品集

第二十九回少年主張大会

第二十八回鮫川村詩のコンクール

# こころのうた



鮫川村青少年健全育成推進協議会

## 「こころのうた」の発刊に寄せて

鮫川村青少年健全育成推進協議会長

鮫川村教育委員会教育長 藤田 充

「こころのうた」は、平成九年、鮫川村の小・中学生や高校生が書き上げた意見文、詩や俳句などを集めたのが始まりです。それから二十年以上にわたって、村の多くの方々に読み続けられ、子どもたちの豊かな心と豊かな感性に共感していただくという大切な役割を果たしてきました。

現代は、一層ICT機器が進化し、中でもスマートフォンやSNSに関わる諸問題が取沙汰されており、私的な通信ツールに留まらず、情報獲得という点からもテレビを凌駕し、社会的な様々な影響が出てきております。最近では秘匿性が高いアプリを使用した「闇バイト」、動画サイトを活用した選挙活動、過大な商業広告の拡大があり、外国では、青少年の脳の成長を妨げるとして、年齢による使用制限が設けられたというニュースが話題になっております。思考するという学習が阻害されてはなりません。人間の成長には、考えることが「脳の発達」と関係があると言われております。ICT機器が進展しつづける今こそ、自ら考え、自ら判断し、行動するというプロセスを子どもたちにしっかりと踏ませたいものです。

子どもたちにとって「作文」は、自分と向き合い、考えをまとめ、表現する行為であり、コミュニケーション能力形成の基礎となるものです。このような創作活動において、自由にのびのびと自らの世界を生き抜いて行く力の礎を形成できるものと信じております。また、自己への肯定感を高め、学校生活やその後の生活

に大いに活かされて行くものと信じております。

「こころのうた」には、子どもたちが日常生活の中でふと考えたことや感じたこと、自然やものを見つめた想いを自分の言葉（文字）で表現した作品が数多く掲載されております。素直な想いや意見がつまった意見文、鋭く細やかな感性が感じられる詩など、子どもたちのみずみずしい感性を感じます。さらに、子どもたちが、人として成長してきた足跡や未来を展望する心が凝縮されており、こころのうたで生活したからこそ作品でもあります。これからも日常生活の中で感じたこと、考えたこと、思ったことを自分の言葉で表現して欲しいと思います。

さて、今年度の作品集「こころのうた」は、「第二十八回鮫川村こども詩のコンクール」や村の「第二十九回少年主張大会」で発表された作品が収録されており、是非とも、「子どもたちの心の声」を聞いていただきたくお願い申し上げます。

結びになりますが、発刊に際し作品指導や審査に当たられました鮫川小学校、鮫川中学校の先生方、教育委員会事務局の皆様には厚く御礼を申し上げ、発刊に寄せるあいさついたします。



## ■第二十九回少年主張大会

□未来へつないでいきたいもの

鮫川小学校五年

藤元

駿斗・・・1

□ロボットの進化とSDGsへの貢献

鮫川小学校六年

澤村

宗一郎・・・2

□セカイ

鮫川中学校一年

黒田

奈花・・・4

□ネットでのいじめと人間関係

鮫川中学校二年

金澤

愛葵・・・5

□アライグマとラスカル、日本に行く

鮫川中学校三年

阿久津

悠介・・・7



## ■第二十八回 鮫川村詩のコンクール

### 小学校児童作品

#### □最優秀賞

「言葉はお花」

鮫川小学校三年

小林 らら・・・ 9

#### □優秀賞

「風鈴」

鮫川小学校五年

関根 優奈・・・ 9

「最後の夏休み」

鮫川小学校六年

澤村 宗一郎・・・ 10

#### □佳作

「あさがお」

鮫川小学校一年

遠藤 結愛・・・ 10

「あさがお」

鮫川小学校一年

芳賀 凜・・・ 10

「キャンプ」

鮫川小学校二年

澤村 信次郎・・・ 11

「夏の風」

鮫川小学校三年

高木 亮丞・・・ 11

「夏の音」

鮫川小学校三年

須藤 裕也・・・ 12

「夏祭り」

鮫川小学校四年

大森 一葉・・・ 12

「折り紙」

鮫川小学校四年

阿久津 颯太・・・ 13

「宝石」

鮫川小学校四年

中川西 鈴那・・・ 13

「僕の家のおリンピック」

鮫川小学校五年

小林 楓・・・ 14

「すんだ空気」

鮫川小学校六年

鈴木 颯太・・・ 14

「ぼくと自転車」

鮫川小学校六年

矢吹 碧唯・・・ 15

「夏の力エル」

鮫川小学校六年

中川西 叶翔・・・ 15

# 中学校生徒作品

□最優秀賞

「夏」

鮫川中学校三年

須藤 優空・・・16

□優秀賞

「夏」

鮫川中学校二年

黒田 采花・・・16

「陽炎」

鮫川中学校三年

木村 隆一・・・17

□佳作

「木の一生」

鮫川中学校一年

石井 唯愛・・・17

「いきもののそれぞれ」

鮫川中学校一年

黒田 奈花・・・18

「梅雨」

鮫川中学校一年

中川西 陽悠・・・18

「空」

鮫川中学校二年

金澤 愛葵・・・19

「風鈴」

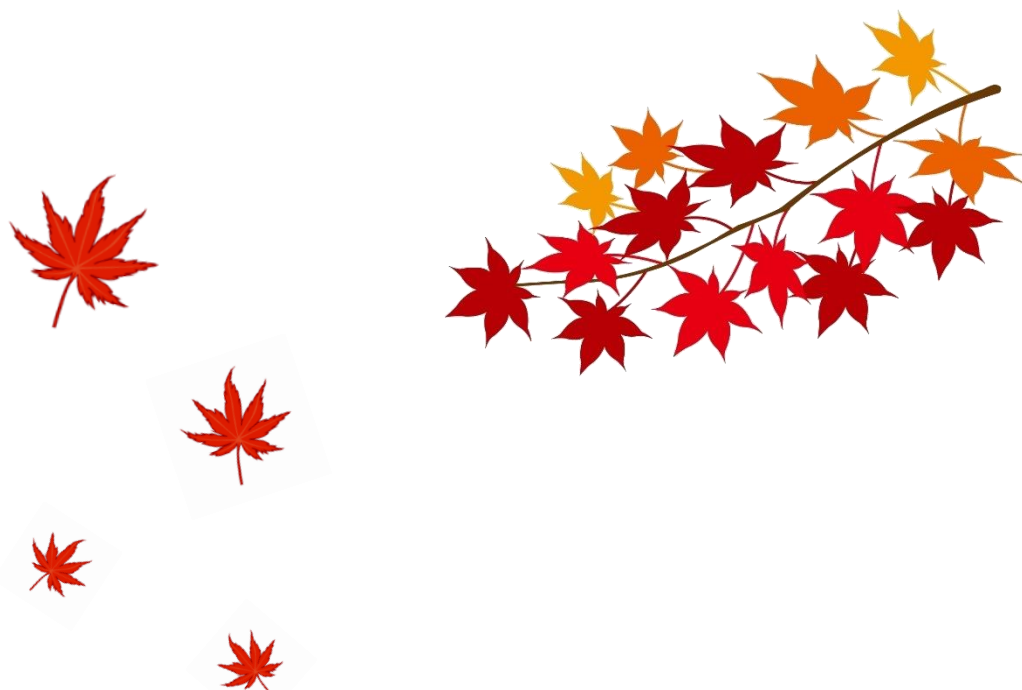
鮫川中学校二年

緑川 大・・・19

「道」

鮫川中学校三年

中川西 温基・・・20



# 第二十九回 少年主張大会作品

未来へつないでいきたいもの

鮫川小学校 五年 藤元 駿斗

六月に、ぼくの住んでいる西野で、道路の花だんに花の苗植えをする活動がありました。西野地区の小学生が集まり、お父さん・お母さん、地域の人たちといっしょに、ピンク・赤・黄色・オレンジなど、色とりどりの花を植えました。ぼくは、この活動に毎年参加しています。今年も、地域の大人の方が、あらかじめマルチをかけてくれていました。そして、苗を置く場所には穴も開けてくれていました。その穴のところにスコップでちょっと深く土をほって、苗をポットからそっと取り出して、ほった穴に入れます。そして、やさしく土をかぶせます。ぼくは、もう、五回目なので、手ぎわよく上手に作業を行うことができました。初めて参加した一年生にも、やり方を教えてあげながら、いっしょに植えることができました。

何もなかったところに、きれいな花がいっぱい咲いています。その場所を車で通るときは、いつもスピードをゆるめます。

「きれいにお花が咲いているね。」

お母さんは、そばを通るたびにそう言います。ぼくも、そう思いながらがめます。

七月になると、きれいな花のそばに、たくさん草も生えてきます。せっかく咲いた花をじゃましたり、栄養をうばったりしてしまいます。だから、みんなで草むしりをして、花だんを整備します。きれいに整備された花だんは、再び元気をとりもどし、色とりどりの花を咲かせます。

こうした作業が、正直なところ「少しめんどうだなあ。」「早起きしたくないなあ。」と、思うこともあります。でも、あせをかいで、どろだらけになって苗を植えたり、草をおしったりした後は、必ず、すがすがしい気持ちになります。そして何より、地域の友だちや大人の方といっしょに、協力して作業すると、仲が深まったように感じて心が温まります。ぼくは、この花だんの花は、人と人とのつながりによって咲いているのだと思います。地域の人の思いやりやさしさがこの花を咲かせているのです。

西野には、子どもが少なく、お年寄りが多いです。お年寄りの方は、元気に野菜を作って、ぼくに分けてくれます。また、「おはよう」「おかえり」などと、ぼくに声をかけてくれます。ぼくの祖父母みたいにやさしく接してくれます。だから、「まるで家族みたいだな。」と感じることがよくあります。

秋には、おまつりがあります。地域の方とふれあうことができる機会なので、とても楽しみです。ぼくは、大きな声を出してみこしをかついで地域の方に喜んでもらいたいです。ぼくは、ぼくの住んでいる西野が大好きです。困っていると

きは助け合い、みんなで仲良く暮らしているところが本当に好きです。この美しい自然と、人と人とのつながりを、ぼくは未来につなげていきたいと思っています。



## ロボットの進化とSDGsへの貢献

鯨川小学校 六年 澤村 宗一郎

ぼくはこの夏、村田製作所のロボット見学に行きました。そこで見た、まるで人間のようにスムーズな動きをするロボット。技術の高さに衝撃を受けました。多くの部品と技術を結集し、ロボットが作られていることを知り、ぼくはとても興味をもちました。そこで、ロボットの進化により、未来がどのようなになっていくか調べることにしました。調べて分かったのは、ロボットが進化することで、SDGsの実現に貢献できるということです。

まず、ロボットを使うメリットとして、仕事が効率的に進むようになるとともに、人々の安全が守られることが考えられます。危険な作業をロボットが代わりにやってくれるので、危険な場所に行く必要がなくなり、事故を未然に防ぐことができます。これは「働きがいも経済成長も」というゴールに関連しています。鯨川村では、道路整備を安全に行うなど、村の環境を整えることができます。

また、ロボットの進化は、環境への配慮につながります。ロボットは効率よくエネルギーを使うことができるので、資源の無駄遣いを防ぎ、環境に配慮した活動を行うことができます。これは「気候変動に具体的な対策を」というゴールに

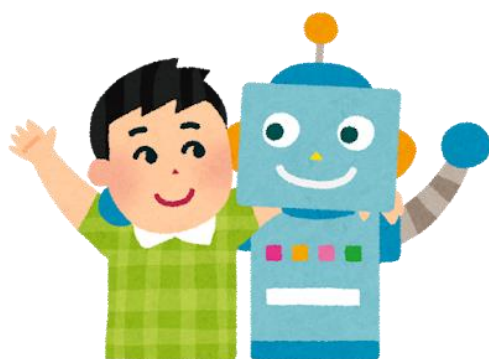
関連しており、地球温暖化の進行を防ぐことにもつながる大切なことです。

次に、ロボットが進化するメリットとして、製造業の進歩が考えられます。高品質な製品をさらに効率よく作ることができます。できれば、企業も大きく成長し、経済発展につながります。さらに、ロボットを使うことで、働く人の負担も減り、人々の生活が豊かになることが考えられます。これは「産業と技術革新の基盤を作ろう」というゴールに関連しています。

最後に、ロボットが進化するメリットとして、医療の発展が考えられます。医療用ロボットは、手術やリハビリに役立つので、患者さんが安全に治療を受けることができるようになります。医療用ロボットと人々が協力して活動することができます。できれば、医療器具がそろっていない場所や医者がいないどんな場所でも、かけがえのない命を救うことができるようになります。これは「すべての人に健康と福祉を」というゴールに関連しています。

このように、ロボットが進化することで、SDGsの実現に貢献できることがたくさんあることが分かりました。しかし、未来の全てをロボットに任せればいいというわけではないとぼくは思います。大切なのは、ロボットを作る人間の思いです。誰かのことを考え、行動しようとする人間の思いが、ロボットを進化させていきます。これから、人間が思いやりの気持ちを大切にし、未来をよりよくしていくことが

大切です。今、鯨川村は少しずつ人口が減少しています。鯨川村のよりよい未来のため、そして鯨川村に住む人々の豊かな生活のため、こうした技術を理解し、使っていくことの大切さを伝えていきたいです。



セカイ

鮫川中学校 一年 黒田 奈花

地域には、たくさんの国がある。そのたくさんの中には、それぞれの特徴がある。例えば、インドや中国は人口が多い。そして、シンガポールやスイスは裕福な国だ。

私は、中学一年生になって、総合学習の時間に、世界の国々の環境や問題について学習した。その学習した内容のなかでも、心に残ったことがあった。

その一つが「SDGs」だ。SDGsとは、英語の「サステナブル・デベロップメント・ゴールズ」の頭文字を集めて略した言葉で、日本語では「持続可能な開発目標」と訳されている。SDGsは、「誰一人取り残さない」を合い言葉に、二〇三〇年までの達成を目指している。私がこのSDGsを学んで思ったことは、「持続可能な世界にしていくために、これから何をしよう。」ということだ。

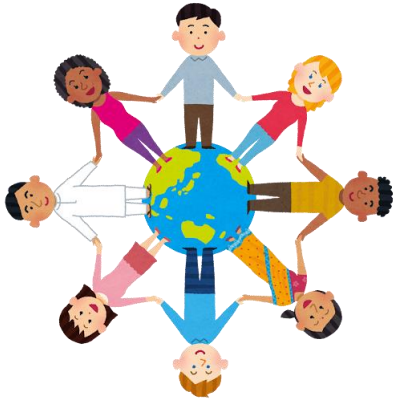
一年生の総合的な学習の時間では、私たちの住む鮫川村の持続可能な村づくりについて学習した。この取り組みでは、鮫川村の大切な「里山景観」を維持するために、様々な取り組みを行っていることを学習した。村で切った木の切りくずを使ってお湯を沸かす、温泉施設があったり、村で堆肥を作って農家の人に販売し、有機栽培を行ったりしていることを

知った。また、ゴミ拾いなどを行おうという取り組みがあるそう。この取り組みを知り、ゴミ拾いをしてくれる人たちに迷惑をかけないように、ゴミをその辺に捨てないことを続けたいと思った。

そして私は、「いろいろな世界の現状を知ろう。」と考えた。調べてみると、貧困や難民などの社会的問題、紛争やテロなどの政治的問題、気候変動や資源の枯渇による環境問題などがあった。私は、さらに社会的問題の貧困について調べた。すると、とても貧しい生活をしている人が世界に七億人以上いることが分かった。その七億人以上の半分ほどが、アフリカ地域に住んでおり、その次に多いのが、南アジア地域、東アジア地域だ。貧しい理由には、次のようなことがある。「戦争や災害が起こって仕事ができなくなった。」「家族や親戚などで助けってくれる人がいない。」「十分な教育が受けられないため、仕事を選びにくい」などの厳しい理由がある。そして、豊かに思える日本だが、今、七人に一人、つまり七分の一の人が貧困状態にある。私はこの現状を知ったとき、「日本にも、今、貧困状態にある人がいるんだ。」と驚いた。このような人たちは、安全な水や衛生、十分な栄養など、生きていく上で、最低限必要なものを手に入れることが難しいのだ。そうした日本国内の不平等を企業がもっている技術力や専門性を生かして克服しようとする取り組みが広がっている。その取り組みを行っているのが、日本ユニセフ協会だ。日本ユ

ニセフ協会は、すべての子どもが公平にチャンスを得られる世界を目指して活動している。日本ユニセフ協会では、募金をしている。そのお金は保健、栄養、衛生管理、教育などに使用されている。二〇二二年には、三四億回のワクチンを寄付できるお金が集まった。

このように私は、困っている人がいたら、その人のために、すぐ助けにいかうとできる人がとても優しい人なんだろうなと思った。私は将来、そのような人たちのように、上手に人を助けることができる人になりたい。



## ネットでのいじめと人間関係

鮫川中学校 二年 金澤 愛葵

私が伝えたいと思うことは、ネットでのいじめについてと、人間関係についてです。

最近、ネットでのいじめをしている人が増えていることを知りました。ネットでは、顔も名前も分からないので、誰にいいめられたのかも分かりません。たった一人に悪口を書かれたらスルーできるかもしれませんが、それが十人、二十人と増えていき、同じような悪口を書かれたら、「自分はそのように思われているのかもしれない。」と感じてしまい、誰にも心を開くことができなくなってしまうと思います。そのようにネットでいじめた人は、自分の名前などが分からないから、言いたいことを言っているだけで、いじめているという自覚がないそうです。いじめられている側は、自分のことを攻撃してくる人が分からない分、もし、これが知っている人や学校の友達だったらどうしよう、と考えてしまい、人を信用することができなくなってしまうと思います。

私は、そんないじめがなぜ起きてしまうのか、原因を調べてみました。いじめを始めてしまうきっかけは、ストレスのはけ口として行われることが多いそうです。ストレスが溜まり続けると、その人に悪気がなくても、人に当たってしまう

ことがあると思います。しかし、相手が嫌だと感じたら、それはいじめです。ストレスを感じていると思ったら、一人で抱え込まずに、相手としっかり話し合ったり、友達や家族に相談したりして、自分に合ったストレス解消法を見つけることが大切だと思います。

そして、インターネット上のいじめについてです。SNSを使って、相手に何か嫌だったことなどを伝えようとすると、自分はそのようなつもりがなくても、相手に伝えたい思いがうまく伝わらず、嫌な思いをさせてしまうことがあると思います。だから、相手に伝えたいことがあるときは、直接自分の気持ちを伝えて、相手とコミュニケーションを取りながら、話し合うことが大切だと思います。また、SNS上で、知らない人からのコメントで傷つくことがあれば、アカウントを削除することも一つの方法だと思います。そこで、自分にとってSNSが本当に必要なものなのかどうか、考えるきっかけにもなるのではないのでしょうか。

次は、人間関係についてです。私が人間関係で心に留めていることは、全員に好かれようと思わないことと、人に自分の期待を押しつけないようにすることです。相手の気持ちを考えて行動することはとても大切です。けれど、相手のことを考えすぎてしまうと、嫌われたくないと思ってしまい、相手に合わせて、自分の気持ちを言えなくなってしまう。自分の気持ちを言わずに我慢しては、逆に嫌われてしま

うことがあると思います。それなので、自分の気持ちはしっかりと伝えながらも、ありのままの自分を受け入れてくれる人と一緒にいることが大事だと思います。

次に、人に自分の期待を押しつけないようにすることです。私の好きな人の名言に「人に期待をしないように生きる」というものがあります。自分が相手にすぐく期待をして、それに相手が応えてくれなかったとき、自分の期待通りではないと落ち込んでしまうと思います。でも、そのような自分の期待を人に押しつけず、自分は自分、人は人と考えて接することで、気持ちに余裕ができます。逆に、期待をしていないのに、相手が自分にとって嬉しいことをしてくれたときの感謝はとても大きくなると思います。

このように、ネットでのいじめや人間関係について考えることで、自分の生活についても考えることができました。これを日常生活にも生かして、人との関係をよくしていきたいと思っています。

アライグマとラスカル、日本に行く

鮫川中学校 三年 阿久津 悠介

一九七七年一月二日、アメリカから日本にとある作品がやってきた。その作品は、社会現象を巻き起こし、日本で絶大な人気を博した。だが、その人気は、人に夢と幻想を抱かせ、日本の生態系を破壊するまでに至ったのである。

作品の名前は、「あらいぐまラスカル」である。日本のテレビ系列で放送された、世界名作シリーズの第三作目の作品だ。物語のあらすじは、スターリングという少年が、母親を失った赤ちゃんアライグマを家に連れ帰り、アライグマに「ラスカル」と名付け、大切に育てていく……というのが大まかな話のあらすじである。この作品の魅力は、日常をほのぼのと描いた物語である、というのもそうだが、なにより、主役であるラスカルの愛くるしさが一番の魅力だろう。そして、そんな可愛いラスカルを見ていた一部の視聴者たちは、こう思うようになったのだろう。「ラスカルを飼いたい」と。だが、アライグマの原産地は、カナダやアメリカ、メキシコなどで、当時の日本では、動物園などの施設でしかアライグマを見ることはできなかった。だが、人の行動力はなんとも恐ろしいもので、ラスカルを飼いたいという思いだけで、アライグマをアメリカなどから輸入してしまったのだ。そうして、送ら

れてきたアライグマを飼い始めた視聴者たちはこう思ったのだろう。「こんなのラスカルじゃない。」と。それもそのはずで、ラスカルとアライグマは違うのだ。そもその話になるが、アライグマという生物は人間に懐かない。気性はとても荒く、攻撃的で、凶暴な性格なのだ。そして、体毛も黄色くない。こんなにもラスカルと違うアライグマを視聴者たちは無責任にも、日本の自然に捨てていった。これを受けて、日本政府は、二〇〇五年、アライグマを特定外来生物として指定し、ペットとしての飼育や販売などを全面的に禁止した。しかし、時すでに遅く、その頃には、天敵のいない最高の環境で、アライグマたちは個体数を急激に増やしていたのだった。こうして、ラスカルという夢と幻想を抱いた人々はアライグマを輸入し、見事に日本の生態系を破壊したのだ。

この大惨事から学ぶべきことは、「妥協」と「下調べ」だと私は思っている。まず、アメリカなどからアライグマを輸入する前から、彼らは動物園などで見ることでできた。いくら凶暴なアライグマといえども、動物園なら檻の中に入っており、人間に攻撃することができない。しかも、家で飼うよりアライグマの可愛らしいところをじっくりと観察することができる。ここで「妥協」しておけばよかったのだ。

さらに、当時インターネットが普及していなかったが、図書館などに行けばアライグマについて書いてある本はあった

はずだ。その本で「下調べ」をすればよかったのだ。そうすれば、引っかけられたり、噛みつかれたりすることもなかった。この二つのことは、人生を生きる上でもとても大切なことなのだ。例えば、旅行などにいったとき、行き当たりばったりで観光するより、しっかり「下調べ」をしてから観光したほうが、時間に余裕をもって観光できるし、行きたい場所も絞りこめる。さらに、そのとき必要でないものをただ欲しいという欲に負けて買ってしまいう前に「妥協」をすれば余計なものを買って後悔することもないと思う。だから、私は「妥協」と「下調べ」を大切にしていこうと思う。ラスカルの二の舞にならないように。



# 第二十八回 鮫川村詩のコンクール作品

詩のコンクール

く小学校児童作品く

＊＊最優秀賞＊＊

「言葉はお花」

三年 小林 らら

言葉ってふしぎだな

たった一言でみんなの気持ちがかわっちゃう

なんとなくの一言で悲しませちゃったり

なんとなくの一言でよろこんでくれたり

言葉ってお花みたいだな

よろこばせたらあざやかなきれいなコスモスに

悲しませたらぶきみなどくがあるトリカブトに

泣かせちゃったらトゲのあるバラに

言葉はその人の心から生まれてくるお花みたいだな

＊＊優秀賞＊＊

「風鈴」

五年 関根 優奈

夏の代表的な風物詩

涼やかな音にいやされる

風にゆれて音をひびかせる

チリンチリンといい音色

暑いけど夏を涼しくしてくれる

まほうの音

風情あふれる夏が来た

風鈴と楽しむ夏休み



「最後の夏休み」

六年 澤村 宗一郎

青い空雲はゆらゆら  
ギラギラ光る太陽の下  
ぼくは海に走った

すずしいへやで友達と  
一緒にすごした寺子屋  
雨がポタポタ空はくろいが  
心はわくわくキャンプ

花火の夜は星が光る  
火の粉がまう空をそめる  
みんなで見あげ笑う声

最後の夏休みもうすぐ終わる  
でも心の中にはずっと残る  
この夏の日々と思い出たち

\*\*\*佳作\*\*\*

「あさがお」

一年 遠藤 結愛

によきによきぐるぐるねじねじパッ  
らっぱみたいなきれなおはな  
きらきらおほしさみたい  
もっともっとたくさんみせてね  
あさがおさん

「あさがお」

一年 芳賀 凜

まだかな                    さいたよ  
まだかな                    さいたよ  
あさがおさん                まってたよ  
まいにち                    きれいな  
まいにち                    きれいな  
おみずあげた                あかむらさき

「キャンプ」

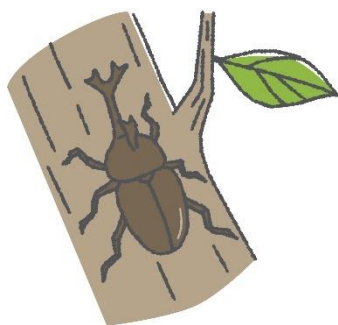
二年 澤村 信次郎

みんながおでしゅうごうだ  
あめになんかまけないぞ  
かみなりだってまけないぞ  
ホールにはった大きなテント  
ひみつきちみたいでわくわく  
しずかになんてできないよ  
ともだちとずっとおしゃべりだ  
でんきをけしてもとまらない  
きがついたらあさだった  
キャンプはとってもたのしいな  
なつの思いで  
ぼくの心にのこるんだ

「夏の風」

三年 高木 亮丞

夏といえバブトムシ  
花火大会はきれい  
アイスクリームはつめたくておいしい  
じゅうけんきゅうたのしいな  
夏のうみに行くとしお風がふく  
夏の風が見えた  
みちの上にゆらゆらとくうきがうごいている  
せみがうるさい  
夏はあっつい  
おばあちゃんげんきかな



「夏の音」

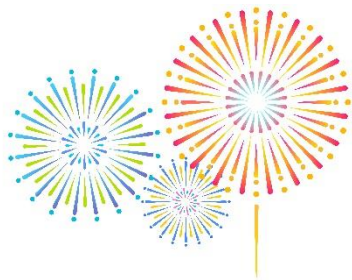
三年 須藤 裕也

夏になるといろんな音がする  
セミのなき声  
花火のあがる音  
おまつりの太こ音  
自然もいろんな音がする  
木が風でゆれたときの葉っぱの音  
川の水流れる音  
夏はたのしいことがいっぱい  
田んぼではカエルのなく声がきこえる  
もうすぐ夏がくるんだと  
ぼくはたのしみにまつ

「夏祭り」

四年 大森 一葉

ジュウジュウ  
しゃりしゃり  
おいしそうな音  
パンパン  
ボンボン  
たのしそうな音  
あたりに広がるみんなの声  
ピューンパン  
最後の花火が聞こえたら  
もうすぐ終わり  
じゃあまた来年



「折り紙」

四年 阿久津 颯太

山おり 谷おり なかわおり  
いろんな折り方つぎつぎと  
何度も何度も折っていく  
心を「無」にして折っていく

いやな事はわすれて  
気持ちを下ち着かせてくれる折り紙

一枚の正方形から  
いろんな形の立体が生まれる折り紙

折り紙ってすごいなあ  
折り紙はぼくの友達  
これから折り紙続けたい

「宝石」

四年 中川西 鈴那

真夏の太陽キラキラ  
太陽の光を浴びてプールの水がキラキラ  
プールに入る子供の笑顔キラキラ  
笑顔を見るパパ、ママの目がキラキラ  
素敵にかがやく夏の宝石



「僕の家のおリンピック」

五年 小林 楓

今年もカブトムシやクワガタをいっぱいつかまえた  
体格のいいカブトムシ、大きなミヤマクワガタ  
元気なノコギリクワガタ  
メスのカブトムシやメスのクワガタだって  
いっぱいつかまえた  
そんなカブトムシたちのケースの中から  
とつぜん聞こえてきた  
バキバキゴキゴキ  
カブトムシたちの投げ合い、押し合いの試合の音  
まるで虫達のじゅうどうだ  
今年もかいさい僕の家のおリンピック

「すんだ空気」

六年 鈴木 颯太

夕暮れ時  
オレンジ色のうろこ雲  
西の空がオレンジ色に輝き  
一日の終わりが近づく  
あしたもきっといい天気  
どこからとなく聞こえてくるセミの声  
ふる里の空気  
すんだ空気  
いつまでも守りたい



「ぼくと自転車」

六年 矢吹 碧唯

ぼくは自転車競技を愛する男!!  
毎日、毎日マウンテンバイク、ロードバイクに  
またがっている  
自転車にまたがれば、ぼくと自転車がおたがいに  
スイッチオン!!  
今は通れない道もゆくゆく自転車とともに通りぬける  
気持ちがあれば通れない道などないのさ!!  
大人になったら、いっしょに世界を一周しようね!!

「夏のカエル」

六年 中川西 叶翔

ケロケロケロ  
君が歌えば、僕も歌う  
ハモったり、輪唱したり  
たまにはソロでも歌うよ  
ケロケロケロ  
夏しか聞けないコンサート  
さあみんなと一緒に歌おう  
ケロケロケロ



詩のコンクール

く 中学校生徒作品く

\*\*\*最 優 秀 賞\*\*\*

「夏」

三年 須藤 優空

夏の雨が好き

ザーザーと大きな音立てふる雨が好き

夏の音が好き

夏の訪れを知らせる虫の音が好き

夏の夜が好き

部屋の窓を網戸にして何も考えずに寝れる夜が好き

夏の空が好き

綺麗な星と美しい月が浮かぶ空が好き

\*\*\*優 秀 賞\*\*\*

「夏」

二年 黒田 采花

浴衣の裾、風鈴の音

入道雲、青い空

夏の記憶、胸に刻む

夏は過ぎ、足跡消えゆく夏の夜

夏の残り香、秋の足音

夜空にひとつ、星が灯る



「陽炎」

三年 木村 隆一

夏空で照るアスファルト  
蒸され、熱せられ  
道路も暑そうだ  
木かげがないなら  
汗ばおように  
陽炎がゆらぐ  
その揺れは  
別の世界に  
つながっていきそうだ



\*\*\*佳作\*\*\*

「木の一生」

一年 石井 唯愛

今日は僕にスポットライトが当たる  
僕の下でみんなが一息つく  
いい仕事したな  
今日は僕もシャワーをあびた  
僕のそばからみんながはなれる  
やっちまったな・・・  
僕を見上げて笑ってくれたらいいな  
僕のまわりで深呼吸して  
かけ回って、休憩して  
今日も僕は、いい仕事するんだ

「いきもののそれぞれ」

一年 黒田 奈花

いきものってたくさん

走れるし、泳げる

でも、みんな歩き方も泳ぎ方も違う

もし、こんなふうに泳げたら

もし、こんなふうに走れたら

いきものってたくさん

飛べるし、登れる

でも、飛べないものも登れないものがある

もし、飛べたら

もし、こんなふうに登ることができたら

私はいつもそう思っている

「梅雨」

一年 中川 西陽悠

雨はうっとうしい

外で遊べないし

ぬれてしまうし

かさをさすようだし

良いことなんて何もない

梅雨なんてなくていいのに

雨は気持ち良い

栄養を分けてくれるし

冷たくて気持ち良いし

たくさん成長できるし

良いことだらけ

毎日雨でいいのに

雨は痛い

空から自分に当たりにくるし

自分の上に水たまりができるし

体が吸収してビチャビチャになるし

良いことがない

雨が痛くなければいいのに

「空」

二年 金澤 愛葵

同じ日なんてない  
時間割も違うし  
空の色も  
風の匂いも違う  
それでも同じようなことで笑って  
同じような宿題をして  
こんな日を永遠にくり返している気がする夜  
苦しくなって窓を開けたら  
きれいな星が広がっていた

「風鈴」

二年 緑川 大

ちりんちりん ちりんちりん  
暑い夏がやってきた  
ゆらゆら揺れ暑さをやわらげてくれる音色だ  
ちりりりりり ちりりりりり  
強い風とともに大きな雷に大粒の雨が降る  
短冊が激しく揺れている  
どこかにとんでいってしまいきそうだ  
ちりん ちりん  
もうすぐ夏も終わりだ  
風で奏でられる繊細で優しい音色は  
ひと夏の大役を終える



「道」

三年 中川西 温基

道は自分の足跡である  
自分のつくった足跡が道となる  
この中学校三年間も足跡となり道となる  
道は自分のふみ出した一歩である  
道は自分の努力跡である  
きっと今までの道も長く、無数の足跡でできているだろう  
これからの高校生活どんな道がつくれるだろうか



令和六年十二月 発行  
発行者

鮫川村青少年健全育成推進協議会  
事務局 鮫川村教育委員会教育課